

1 各部門の最優秀賞の講評

(1) 個人花壇の部（上級）

花数が多くボリューム感が群を抜いており、統一のとれた色調と相まって圧巻の迫力がある。ほとんどの花が種から育てられていると聞き、花育ての努力に驚いた。花の生育も揃い、花がら摘みなど日々の取り組みも花への深い愛情を感じた。

(2) 個人花壇の部（一般）

鉢植えされた多くの種類の草花が庭に所狭しと飾られていた。庭の半分は鉢を線状、残りの半分は円状に配置して、鉢を並べるのも高低の段差をつけ立体的に見られた。色調を合わせることにより、一層美しく演出できると感じた。

(3) 共同花壇の部（上級）

大面積の花壇が小さなパーツに分けられ、それぞれ特色ある花飾りが工夫されている。会員相互の意思疎通と協力が発揮され、草取りや花がら摘みが徹底されていた。共同花壇として地域のシンボリック役割が発揮された花壇である。

(4) 共同花壇の部（一般）

2つの花壇が色調で分けられていた。1つは黄色、赤色を中心とした鮮やかな色（ビビットカラー）、もう1つはピンク、白を中心に淡い色（パステルカラー）を使い、それぞれの花壇を見る人を楽しませてくれる。デザインではパンジー、デージーを中心に図柄が幾何学的に作成されていた。

(5) 保育園・学校花壇の部

校門から前庭に向けて花が美しく咲き誇り、訪問者を暖かく迎えてくれる。中心花壇も花々の咲き揃いが良く、校庭に春爛漫の装いが見事に演出されていた。

2 総評

植栽されていた花の種類は10を超える所が多く、それぞれ花がら摘み、草取りなどの管理が行き届いていた。春の花を代表するパンジーの育成が良く、それを引き立てる周りのチューリップやアリッサムなどの草花も開花が揃っていた。

各部門とも全体的にレベルが高く、評価は甲乙つけがたかった。

令和5年（2023年）4月6日

審査員

名古屋市みどりの協会 緑の相談員 谷澤 隆
梶田 靖